

活動の評価【有形効果】 R8.5月分処方数集計

備北地区・地域フォーミュラリ

No.1: (高血圧症)アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)
No.2: 経口酸分泌抑制剤(PPI・P-CAB)
No.3: HMG-CoA還元酵素阻害剤(スタチン) } 2023(令和5)年9月～

No.4: α -グルコシダーゼ阻害薬(2型糖尿病用)
No.5: 第2世代抗ヒスタミン薬
No.6: 消炎・鎮痛剤(内用剤) } 2023(令和5)年12月～

No.7: 口腔領域小手術後の抗菌薬
No.8: 経口ビスホスホネート製剤
No.9: ヘルペス治療薬 } 2024(令和6)年6月～

No.10: (高血圧症)ジヒドロピリジン系カルシウム拮抗薬
No.11: グリニド系糖尿病用薬
No.12: 多価不飽和脂肪酸製剤
No.13: 尿酸生成抑制薬 } 2025(令和7)年4月～

No.14: 消炎鎮痛・貼付薬 2026(令和8)年6月～

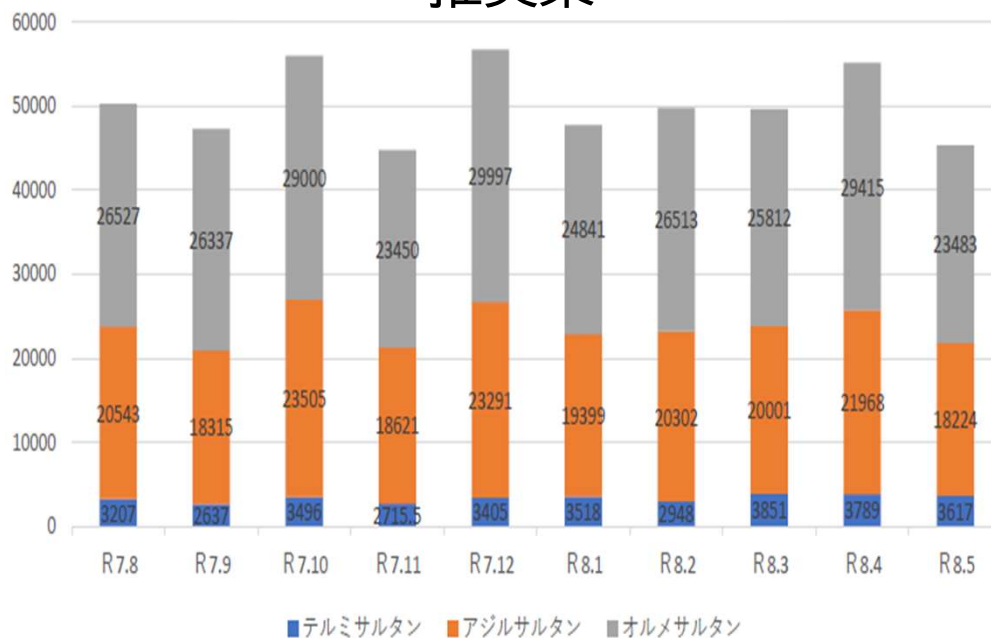
2026年5月処方数集計 (5病院)

ARB アンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬 処方数比較(5病院)

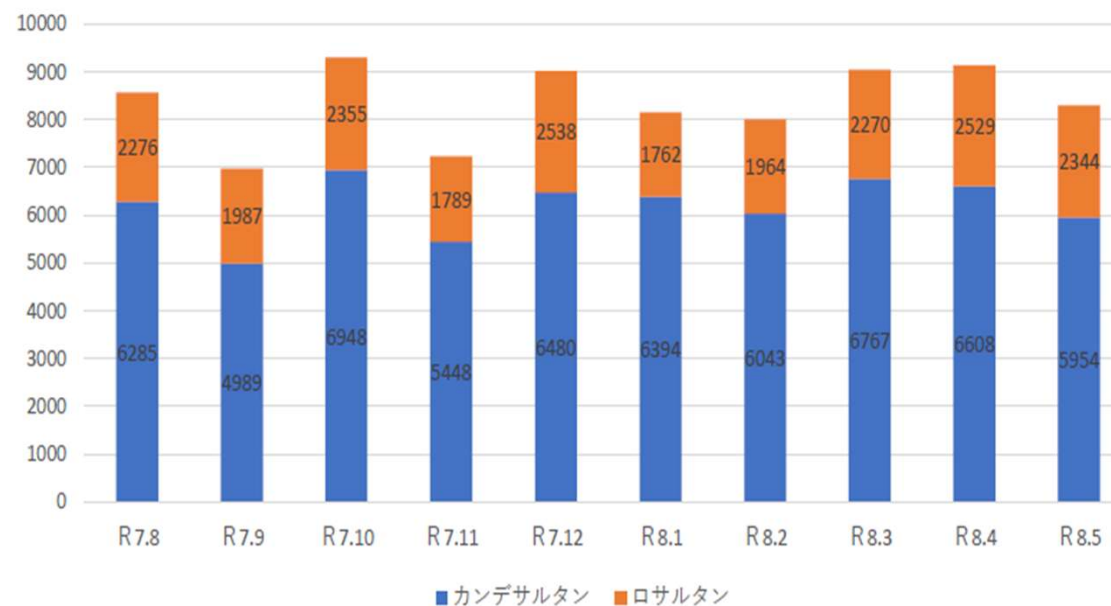
ARB	各病院コメント
三次中央	引き続き、アジルサルタン20mgとオルメサルタン20mgがほぼ同量でトップでした。
三次地区医療センター	テルミサルタンが倍増、アジルサルタン増加、オルメサルタン・カンデサルタンは減少し推奨薬の比率は上昇しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	稼働日の影響により使用量は減少している
府中北市民病院	テルミサルタン:横ばい。アジルサルタン:約1/3に減。オルメサルタン:大幅に増。

2026年5月処方数集計 (5病院)

推奨薬



オプション薬

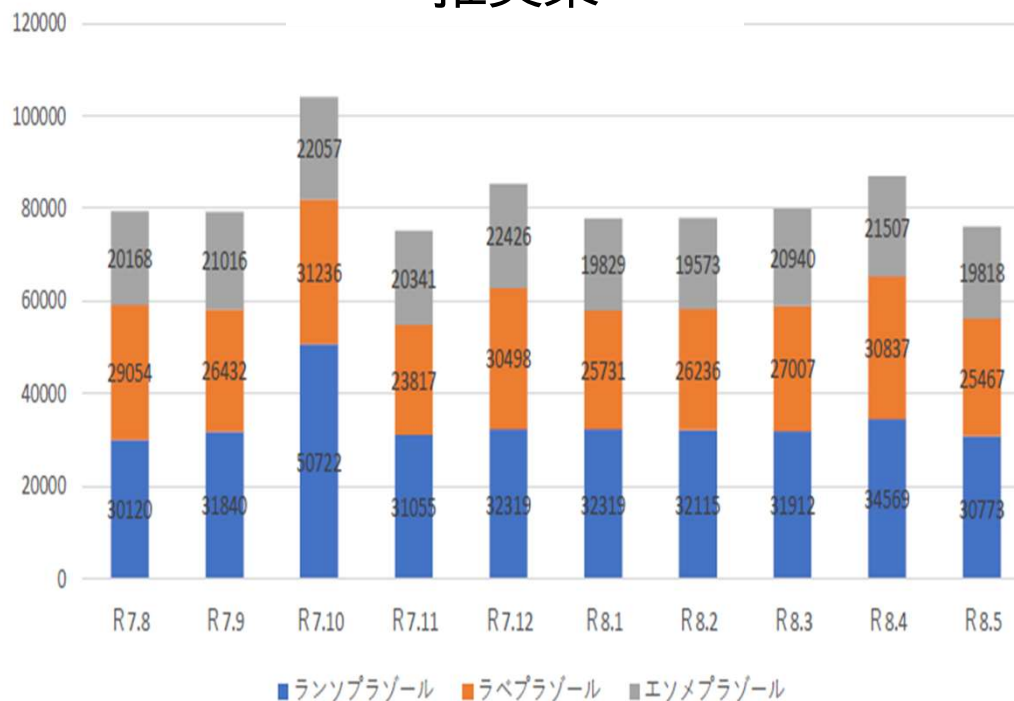


PPI, P-CAB 経口分泌抑制剤 処方数推移(5病院)

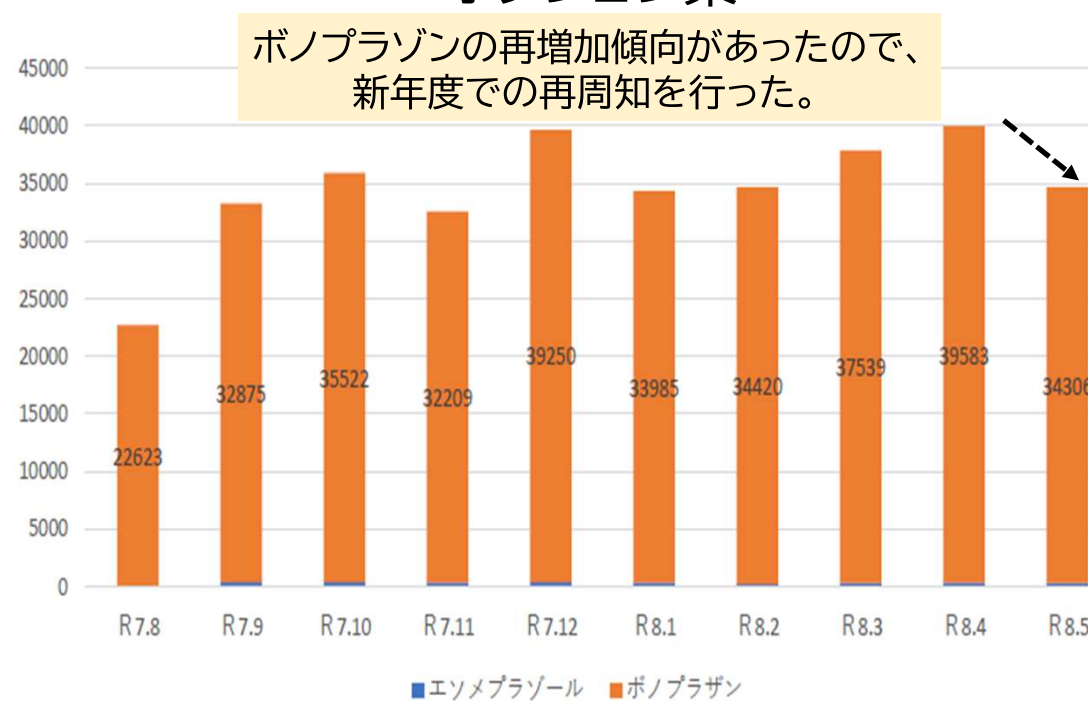
2026年5月処方数集計(5病院)

PPI, P-CAB	各病院コメント
三次中央	引き続き、ランソプラゾール15mgが断トツでトップでした。その他は横ばいでした。
三次地区医療センター	エソメプラゾールが約8割増加、他剤は大きな増減はなく推奨薬の比率は上昇しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	ランソプラゾールの使用量は減少しているもののラベプラゾールの使用量が伸びている
府中北市民病院	ラベプラゾール:大幅に増。ランソプラゾールとエソメプラゾール:横ばい

推奨薬



オプション薬



地域フォーミュラリに明記している内容「ボノプラザンの治療は限定的」を医局会で周知

※**ボノプラザン**は、消化性潰瘍診断ガイドライン2020でヘリコバクター・ピロリの一次除菌治療では、その除菌率の高さ、治療効果(制酸効果)の高さから使用が推奨されている。
 また胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン2021では重症逆流性食道炎の初期治療として使用することを提案されているが、**限定的な患者への使用**と考えられ、薬価も他剤と比較して高額であることから推奨薬とせずオプションとした。また、ボノプラザンは英国および米国で販売されていない。

薬価比較

一般名	ランソプラゾール		ラベプラゾール		エソメプラゾール		ボノプラザン
製品名	GE	タケプロン (先発)	GE	パリエット (先発)	GE	ネキシウム (先発)	タケキャブ (先発)
1日薬価 (標準投与量)	20.8~ 36.0円 (30mg)	39.7円 (30mg)	20.3~ 32.3円 (10mg)	43.6円 (10mg)	41.8円 (20mg)	CAP:69.7円 顆粒:93.9円 (20mg)	144.8円 (20mg)

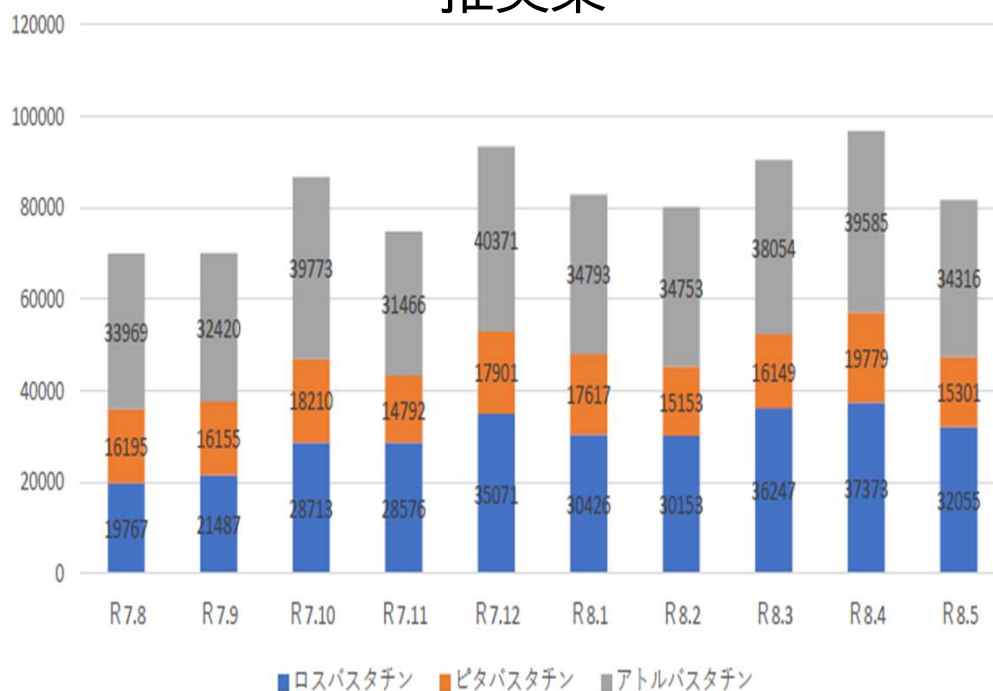
2026年5月処方数集計 (5病院) 上表は成人の胃潰瘍治療に処方される標準用量の1日薬価である。

スタチン HMG-CoA還元酵素阻害剤処方数比較(5病院)

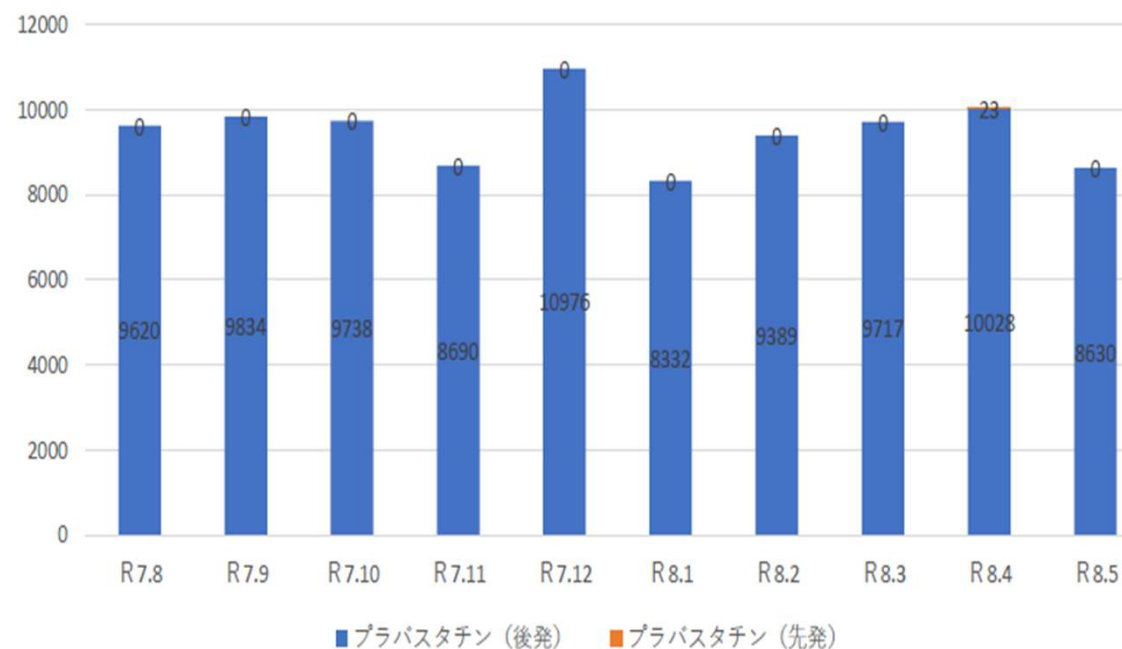
2026年5月処方数集計 (5病院)

スタチン	各病院コメント
三次中央	アトルバスタチン10mgがトップですが横ばいです。その他も横ばいか減少傾向でした。
三次地区医療センター	ロスバスタチンが約8割増加、アトルバスタチンは減少、プラバスタチンはほぼ変動なく推奨薬の比率は上昇しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	稼働日の影響により使用量は減少しているように見えるが高く維持をしている
府中北市民病院	使用量変わらず(アトルバスタチンは増えてますが元々の使用量が少ない)

推奨薬



オプション薬

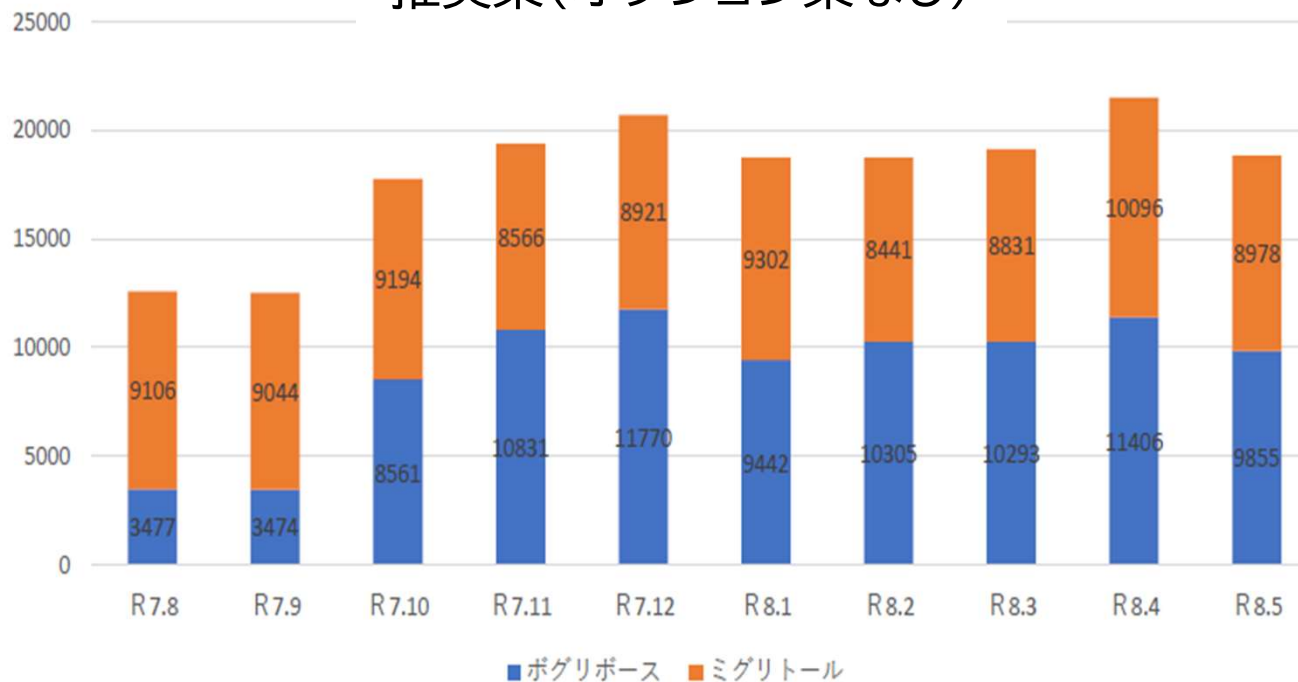


α-グルコシダーゼ阻害薬 (2型糖尿病)処方数(5病院)

2026年5月処方数集計 (5病院)

α-GI	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	ボグリボースが半減、ミグリトールが増加しています。処方件数が少ないため傾向は不明ですが、長期的にはα-GIの処方件数自体が減少しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	稼働日数からいえば減少するはずが糖尿病薬は伸びてきている
府中北市民病院	使用量変わらず(元々ボグリボースの使用数が少ない)

推奨薬(オプション薬なし)



◆その他の薬剤:アカルボースについて

アカルボースは、心血管イベントの抑制効果を検討した試験はあるが、副次的な評価であり、エビデンスレベルとしては低い¹⁾。また、耐糖能異常患者において2型糖尿病の発症抑制が示されているが、日本では適応がない。なお、2022年5月に先発医薬品であるグルコバイ錠、同OD錠の販売中止がアナウンスされた。現在は後発医薬品のみが流通しているが、国内における処方量は極端に少なく、推奨薬とはならない。

1) Jean-Louis Chiasson, et al. Acarbose treatment and the risk of cardiovascular disease and hypertension in patients with impaired glucose tolerance: the STOP-NIDDM trial. JAMA. 2003 Jul 23; 290(4):486-94. PMID: 12876091

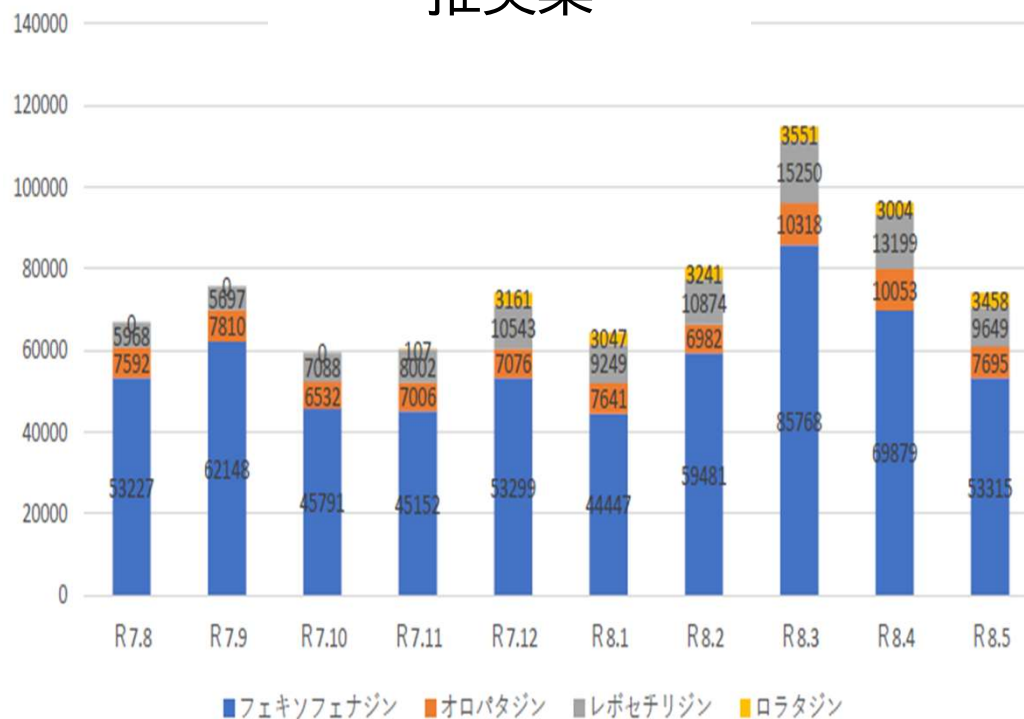
第2世代抗ヒスタミン薬処方数推移(5病院)

処方数減少(変動)は季節性要因によるものがある。
**6月に。ビラスチン、デスロラタジンの後発品収載があったので、現在フォーミュラの改訂作業中:
 ビラスチンは先発品の半額になる。**

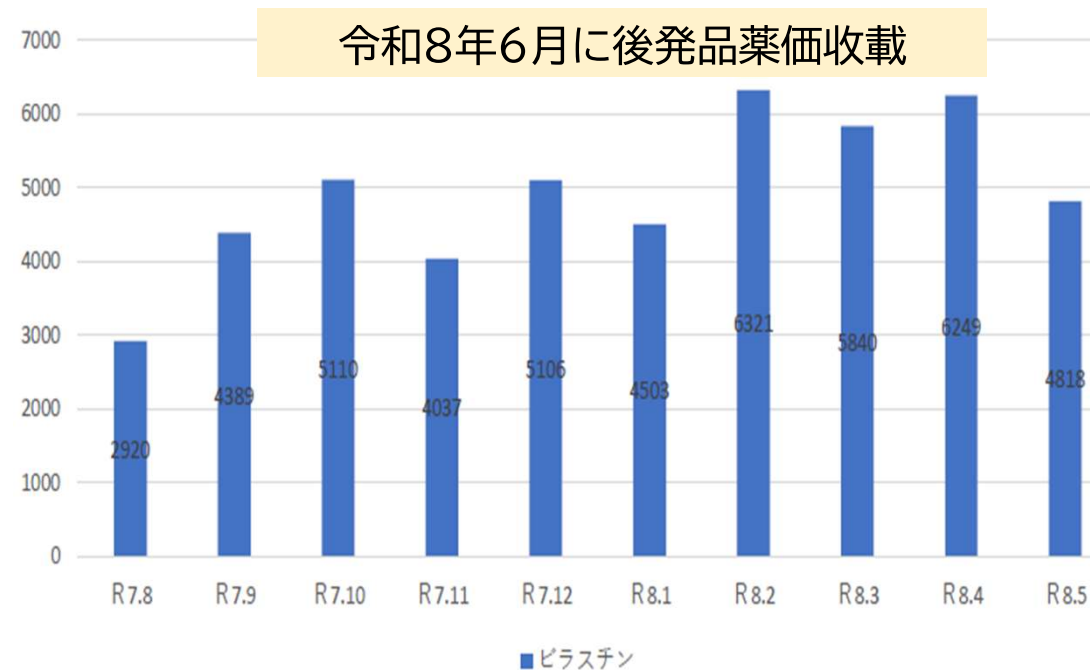
2026年5月処方数集計 (5病院)

抗ヒ薬	各病院コメント
三次中央	全体的に減少傾向でした。
三次地区医療センター	オロパタジンが倍増、フェキソフェナジン減少、ビラスチン大きく減少で総数は増加しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている オプション薬のビラスチンの採用を予定している
西城市民病院	花粉症の患者が一旦落ち着いたように思える
府中北市民病院	フェキソフェナジンとロラタジンの使用量が増えました

推奨薬



オプション薬

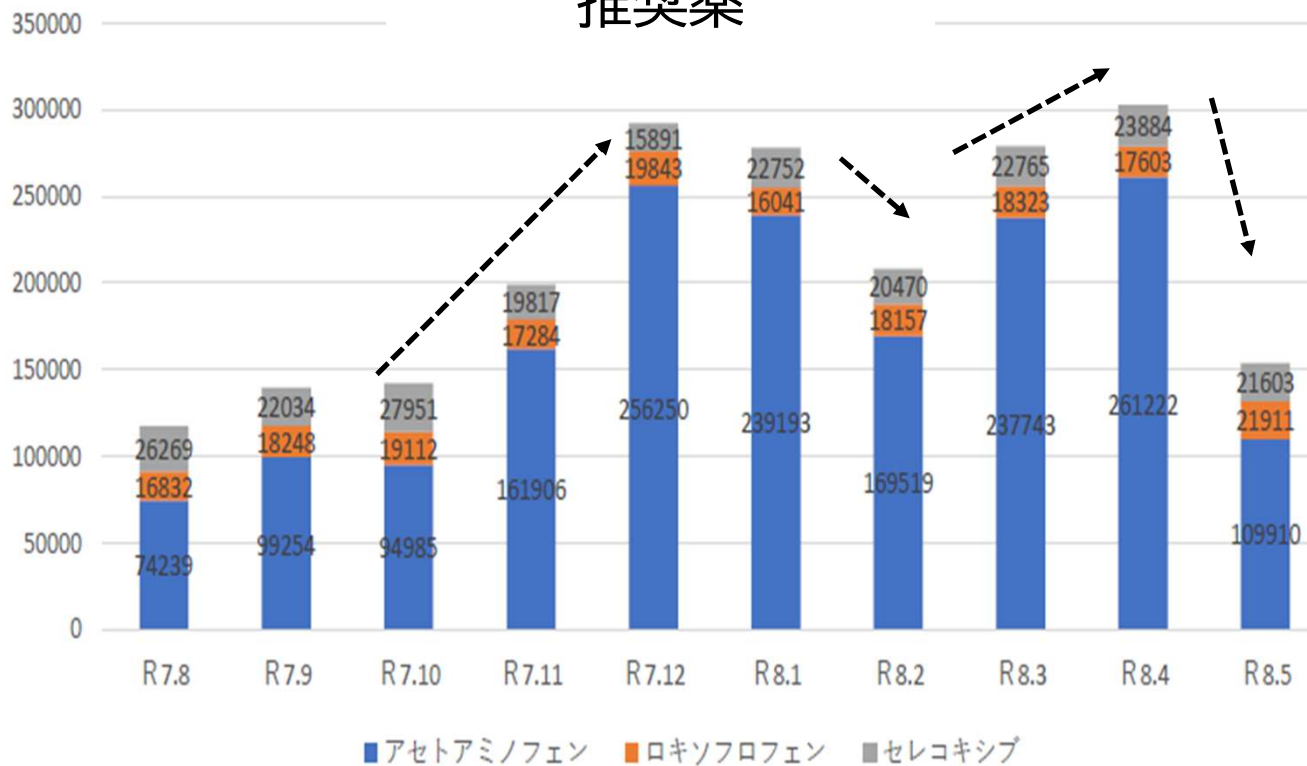


内用 消炎・鎮痛剤の処方推移(5病院) 感染症動向に影響を受けやすい

2026年5月処方数集計 (5病院)

消炎鎮痛薬	各病院コメント
三次中央	アセトアミノフェン細粒は5月に急激な減少が見られました。時期的な影響があるのでしょうか。
三次地区医療センター	アセトアミノフェンがやや減少、ロキソプロフェン・セレコキシブは増加していますが、総数はほぼ変動ありません。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	稼働日の影響もなく使用量は伸びてきている。特にロキソプロフェン錠60mgの使用量は増加傾向にある
府中北市民病院	使用量増えている

推奨薬



オプション薬

地域の特性から現在処方数推移の対象としていない

◆イブプロフェン、ナプロキセンは多くのガイドラインで使用が推奨されてはいるが、当地域での使用量は今のところ少ない。頻用されるロキソプロフェン、セレコキシブの流通量からみれば、イブプロフェンは100分の1程度、ナプロキセン(ナイキサン)は400~500分の1である。

◆ジクロフェナクナトリウムは多くのガイドラインで推奨されている。COX-2選択性はセレコキシブと同程度と報告されている。坐剤、外用剤など複数の剤形を有するが、消化器系の副作用、心血管系有害事象に注意が必要である。また、ジクロフェナクナトリウムには徐放製剤(カプセル)があり、その用法・用量には留意が必要になる。通常、成人にはジクロフェナクナトリウムとして1回37.5mgを1日2回食後に経口投与する。

抜歯時・口腔領域小手術後の 経口抗菌薬処方推移(5病院)

令和6年6月掲載の地域フォーミュラリ
感染症動向が処方の影響している

2025年12月にガイドライン改訂があり、
現在採用薬の見直し作業準備中

2026年5月処方数集計 (5病院)

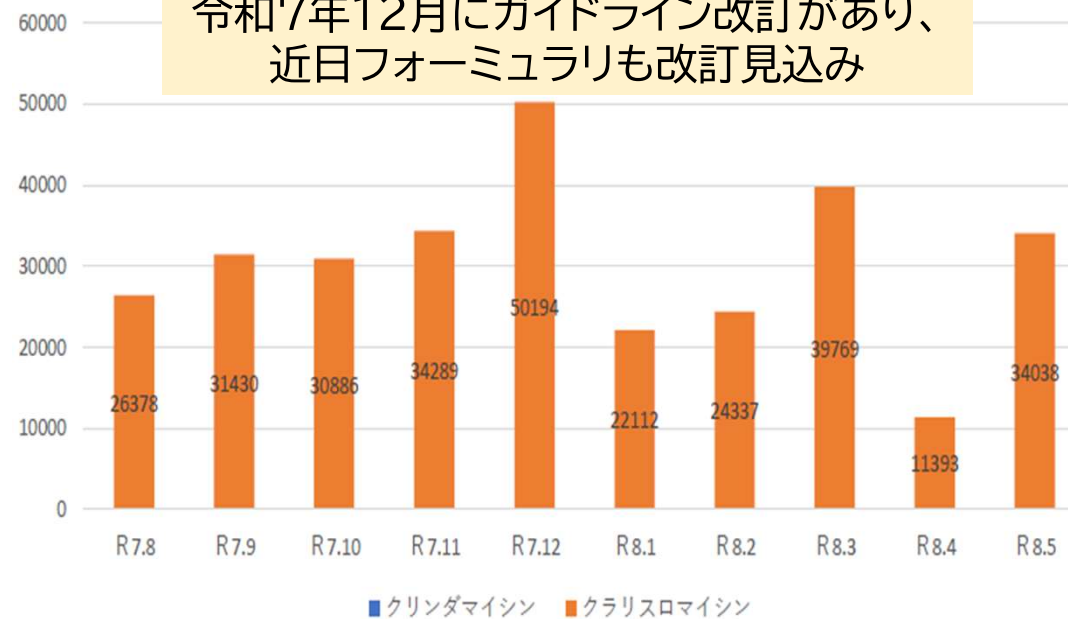
歯口腔術後抗菌薬	各病院コメント
三次中央	アモキシシリン細粒は5月に急激な上昇が見られました。その他は横ばいです。
三次地区医療センター	該当処方なし
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	使用なし
府中北市民病院	使用量増えている

推奨薬



オプション薬

令和7年12月にガイドライン改訂があり、
近日フォーミュラリも改訂見込み



2026年5月処方数集計（5病院）

経口ビスホスホネート製剤 処方数推移(5病院)

令和6年6月掲載の地域フォーミュラリであり、経過(推移)を見ている

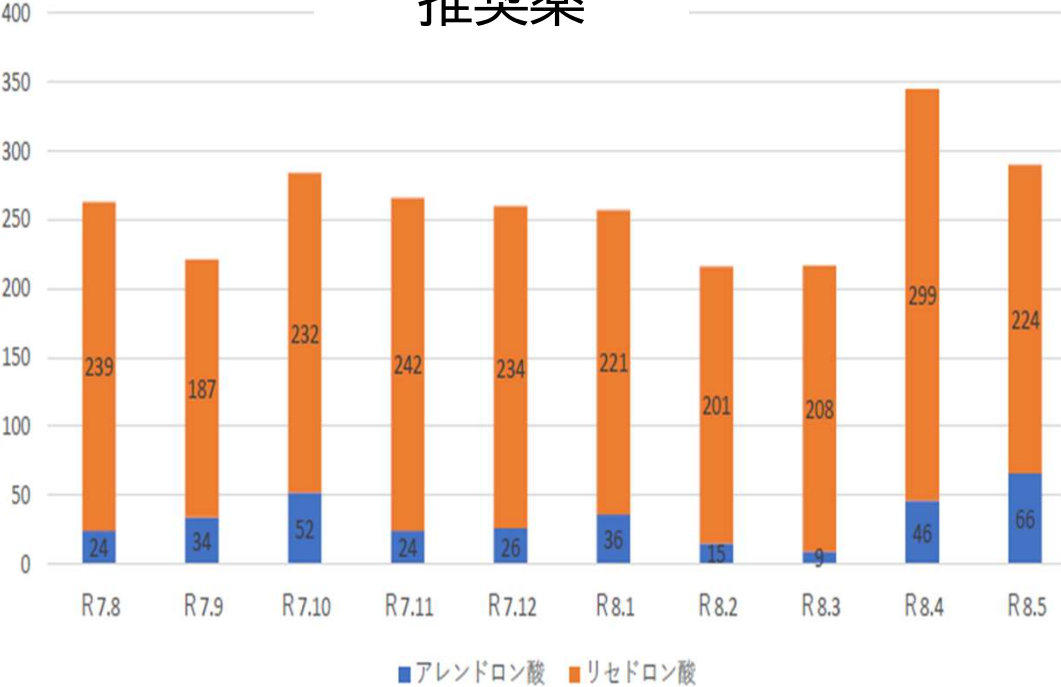
ビスホスネート製剤	各病院コメント
三次中央	リセドロン酸は横ばい、ミノドロン酸は減少傾向でした。
三次地区医療センター	アレンドロンが大きく増加、ミノドロンの処方はありませんでした(入院時のミノドロン持参が減っています)。
庄原赤十字病院	対象薬剤の採用がない
西城市民病院	使用量に変化なし
府中北市民病院	使用量変わらず

オプション:ミノドロン酸

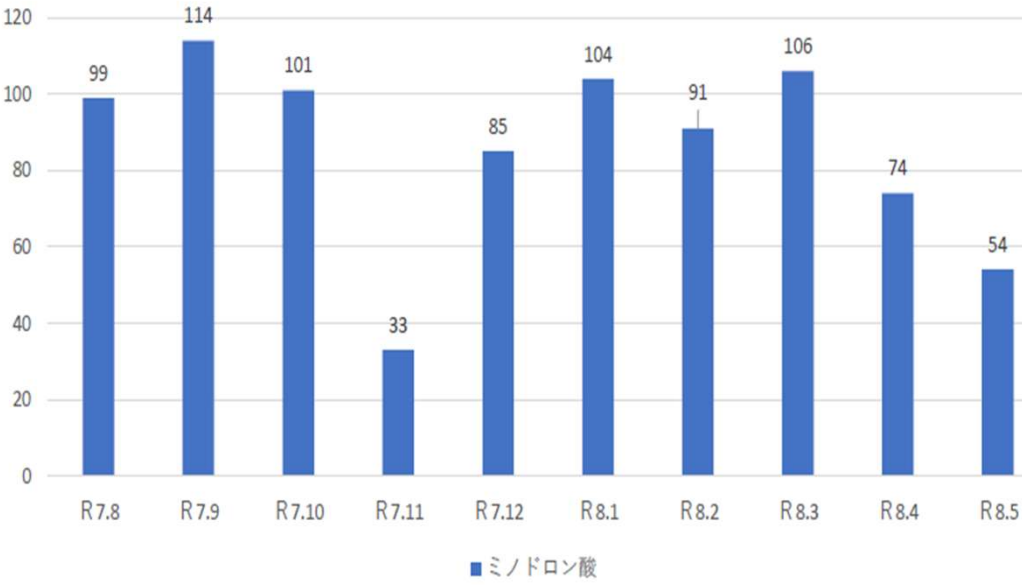
ミノドロン酸は推奨薬であるアレンドロン酸、リセドロン酸と比較して「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版」では有効性の評価は他剤より劣る。

ミノドロン酸は日本人骨粗鬆症患者を対象として、かつ、日本で承認された用量で骨抑制効果が検証された唯一のビスホスホネート系薬剤であると評価されている。すでに後発品は発売されているものの、推奨薬より薬価が高いことから、オプションとしている。

推奨薬



オプション薬



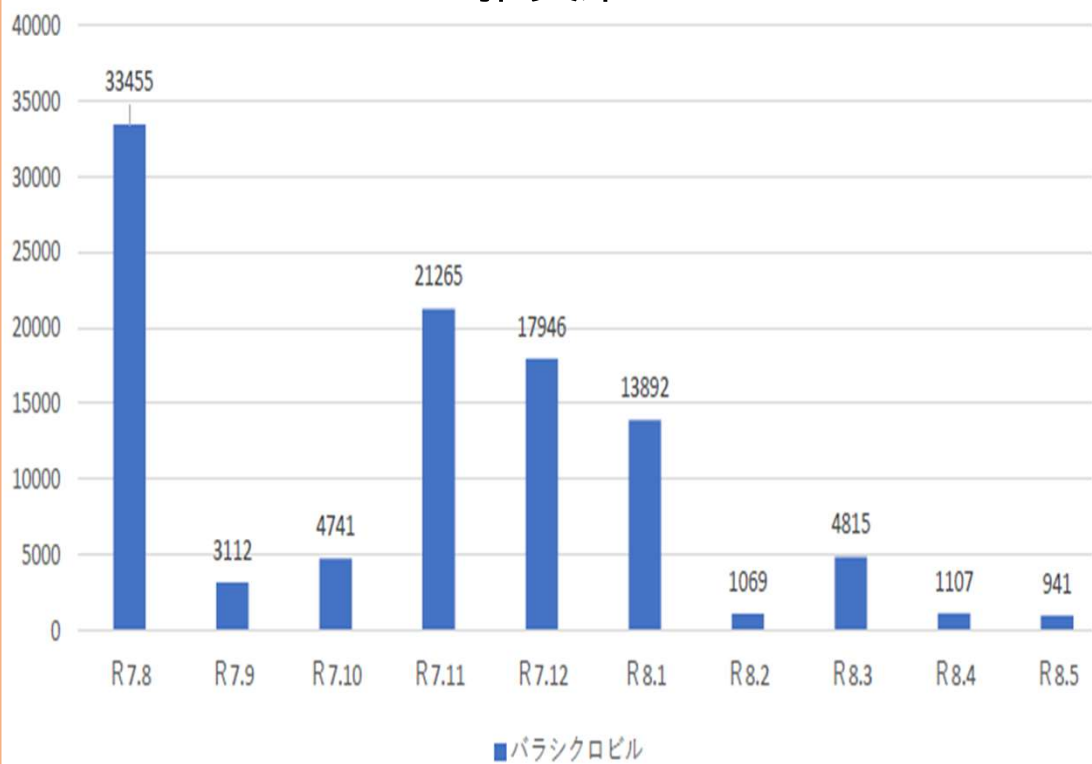
ヘルペス治療薬 フォーミュラリ (成人)処方数推移(5病院)

令和6年6月収載開始の地域フォーミュラリ

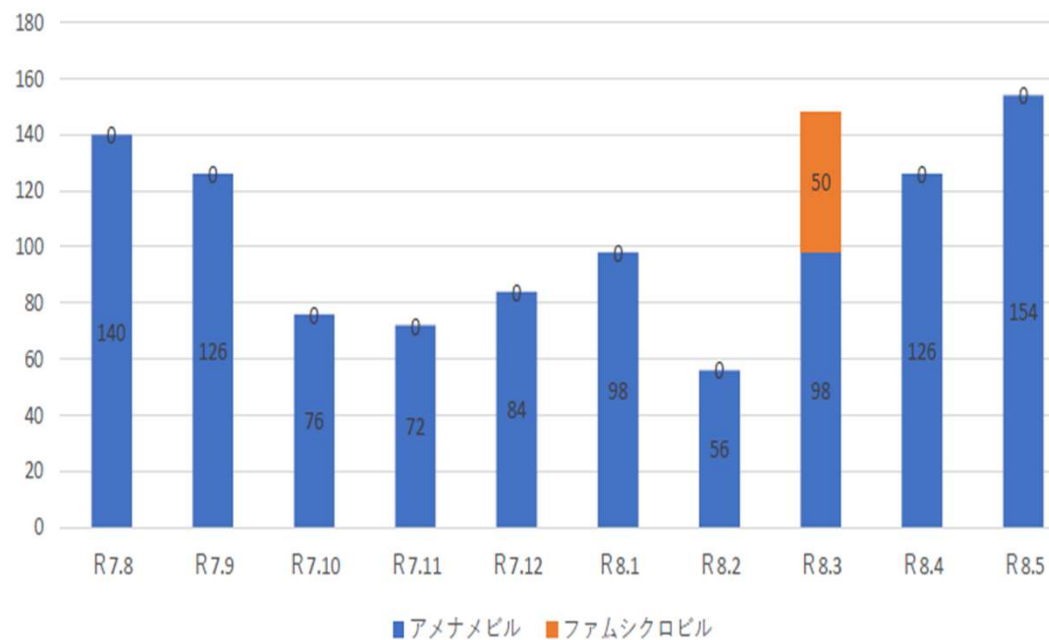
2026年5月処方数集計 (5病院)

ヘルペス薬	各病院コメント
三次中央	引き続き、全体的に減少していました。
三次地区医療センター	処方なし
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	推奨薬の使用なし
府中北市民病院	使用量変わらず(元々バラシクロビルの使用数が少ない)

推奨薬



オプション薬

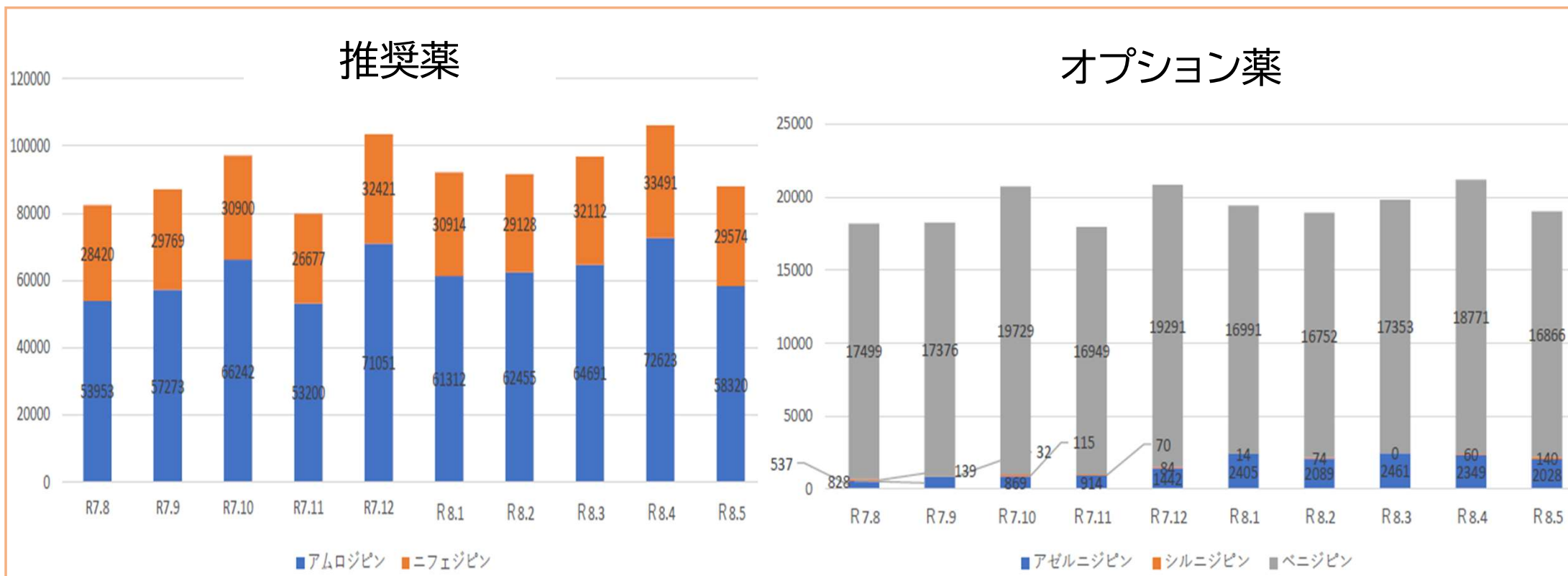


No10. ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬 (高血圧症)処方数推移(5病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2026年5月処方数集計 (5病院)

Ca拮抗薬	各病院コメント
三次中央	推奨薬もオプション薬も横ばいでした。
三次地区医療センター	アムロジピンは減少ですが、ニフェジピン・オプション薬はいずれも倍以上に増加しており、総数も増加しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	オプション薬も含めCa拮抗薬の使用量は若干減ってきている
府中北市民病院	使用量増えている



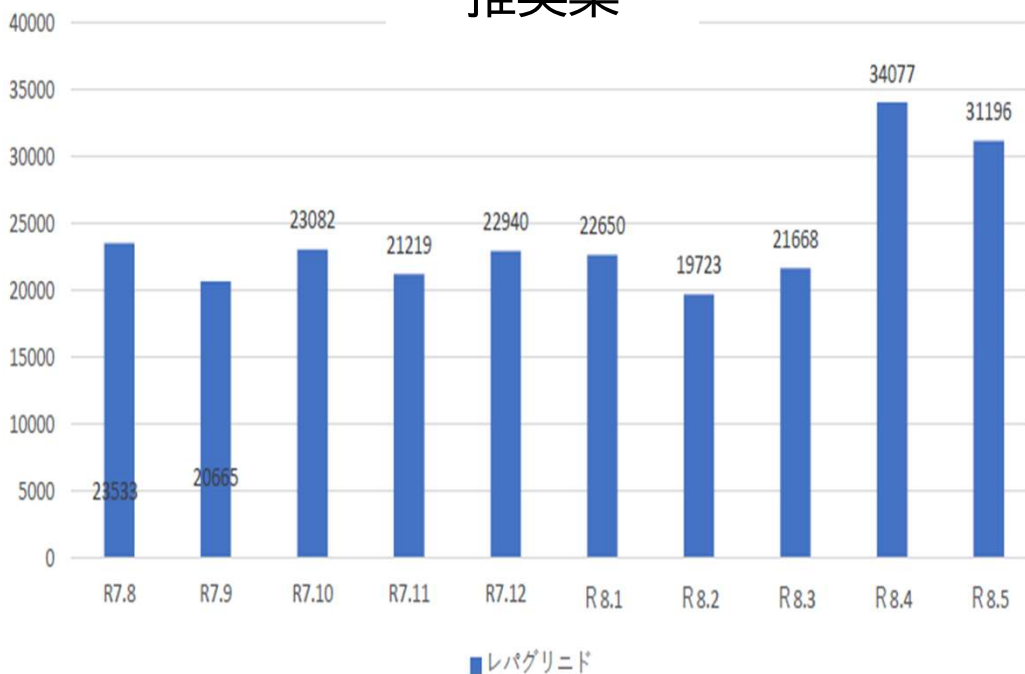
NO11. グリニド系糖尿病用薬 処方数推移(5病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

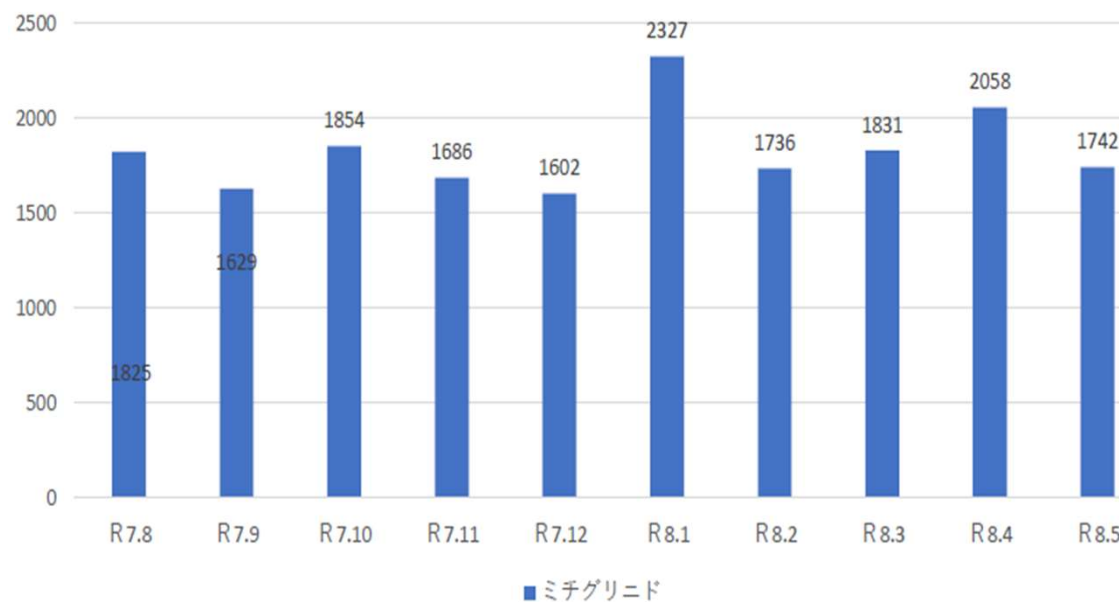
2026年5月処方数集計 (5病院)

グリニド系糖尿病薬	各病院コメント
三次中央	レパグリニド0.25mgは上昇傾向、ミチグリニド10mgは横ばいでした。
三次地区医療センター	レパグリニドが大きく増加しています。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	糖尿病薬は全体的に使用量が増加している
府中北市民病院	採用ありません

推奨薬



オプション薬



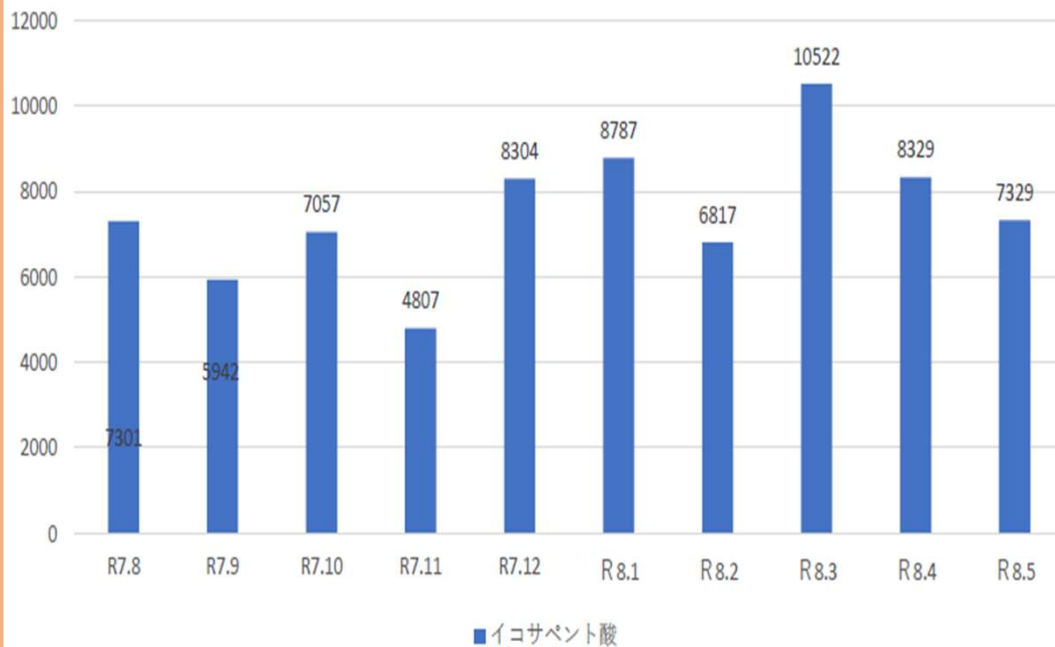
NO12. 多価不飽和脂肪酸製剤 処方数推移(5病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

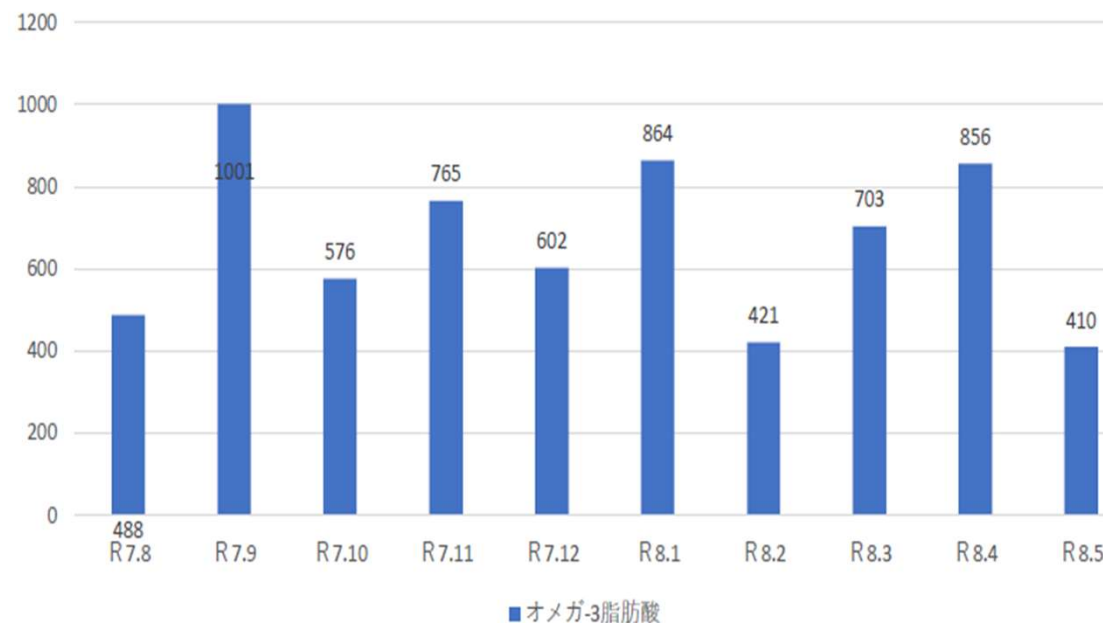
2026年5月処方数集計 (5病院)

多価不飽和脂肪酸製剤	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	処方なし
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	稼働日は少ないものの特に変化はなし
府中北市民病院	採用ありません

推奨薬



オプション薬



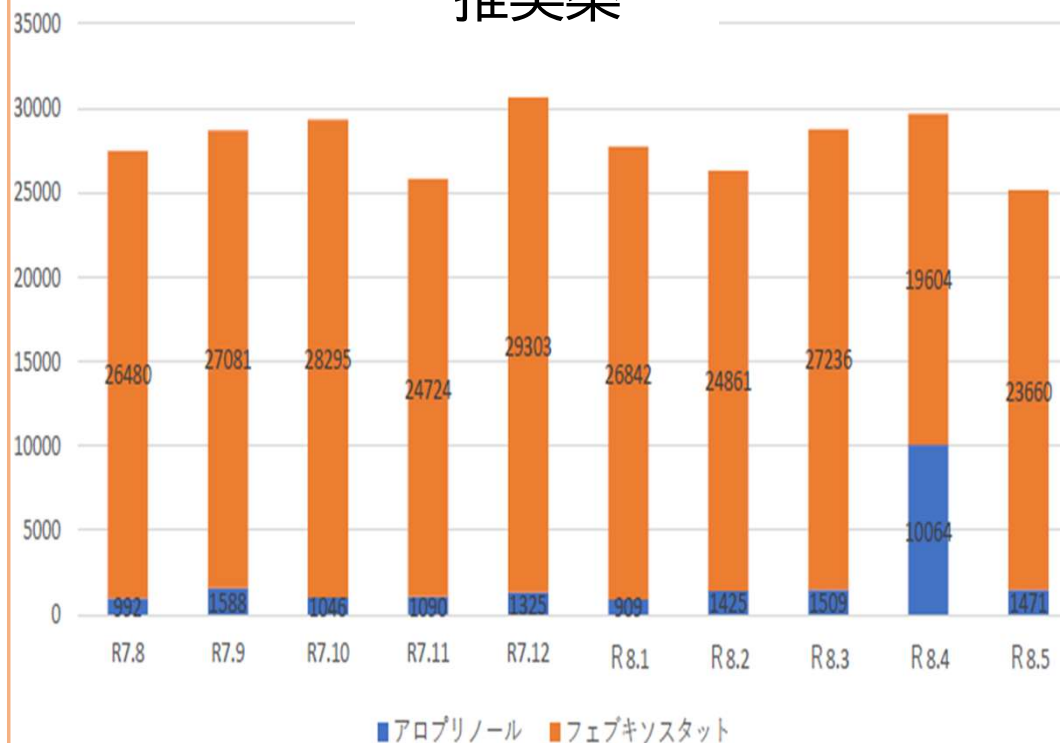
NO13. 尿酸生成抑制薬 処方数推移(5病院)

- 令和7年4月10日策定の地域フォーミュラリ

2026年5月処方数集計 (5病院)

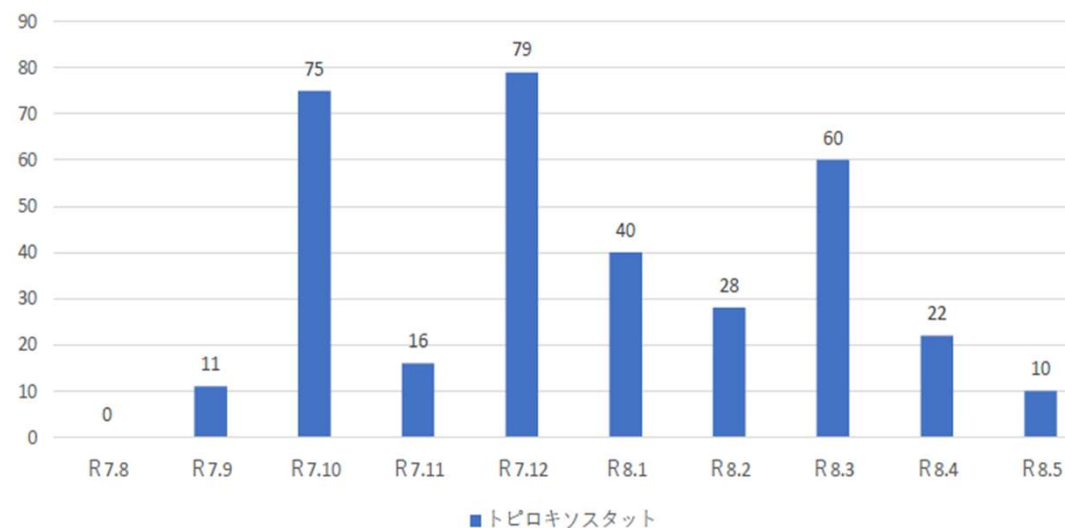
尿酸生成抑制薬	各病院コメント
三次中央	全体的に横ばいでした。
三次地区医療センター	アロプリノール減少、フェブキソスタット増加し、総数は増加していました。両剤とも月変動が大きく、傾向は不明です。
庄原赤十字病院	現在は安定的に処方されている
西城市民病院	稼働日は少ないものの特に変化はなし
府中北市民病院	使用量減少

推奨薬



オプション薬

オプション薬としてのトピロキソスタットは、薬価が3倍高い先発品であることから推奨されないが、1日2回の服用であり尿酸値の日内変動を小さくしたいと判断した患者にオプションとして使用する。



NO.14 消炎鎮痛 貼付薬

- 令和8年6月16日策定の地域フォーミュラリ

消炎・鎮痛用(貼付剤)	各病院コメント
三次中央	6月分より集計作業予定
三次地区医療センター	6月分より集計作業予定
庄原赤十字病院	6月分より集計作業予定
西城市民病院	6月分より集計作業予定
府中北市民病院	当院ではオプション薬の使用が多い。医師の好みによるものと思われる

推奨薬	ロキソプロフェン製剤[後発品]
	テープタイプ (7cm×10cm製剤, 10cm×14cm製剤) パップタイプ(10cm×14cm製剤)
	ジクロフェナク製剤[後発品]
	テープタイプ (7cm×10cm製剤, 10cm×14cm製剤) パップタイプ(7cm×10cm製剤, 10cm×14cm製剤)
オプション	ケトプロフェン製剤[後発品]
	テープタイプ (7cm×10cm製剤, 10cm×14cm製剤) パップタイプ(10cm×14cm製剤)

ロキソプロフェン製剤(プロピオン酸系NSAIDs)
 テープ剤、パップ剤と患者の嗜好に応じた選択が可能
 1日1回の貼付
 先発品と後発品が同薬価で安価
 市販後の使用成績調査で有効性・安全性が極めて高い

ジクロフェナク製剤(アリル酢酸系NSAIDs)
 テープ剤、パップ剤と患者の嗜好に応じた選択が可能
 1日1回の貼付
 適応症の範囲が幅広い
 後発品は安価
 市販後の使用成績調査で有効性・安全性が極めて高い

ケトプロフェン製剤(プロピオン酸系NSAIDs)
 製剤によっては1日1回の貼付で治療が可能
 (多くの製剤は1日2回貼付)
 本カテゴリの中でもっとも幅広い適応症を有す。
 光線過敏症の有害事象が広く知られており、
 適切な指導と安全管理に配慮が必要
 推奨薬が使用できない場合のオプション
 また、腰痛症の適用を有するのはケトプロフェン製剤のみ